

札幌市立屯田北小学校の取組【雪に関する教育課程】

1 研究のねらい

4年目の「雪に関する教育課程」の実践となる。本校は、札幌市北部に位置し、日本海側から入り込む偏西風の影響で冬期間の降雪量が多い。しかしながら札幌市西部のスキー場には遠く、ウィンタースポーツを楽しむ子どもは少数である。家庭では除雪に追われることも多いことから、雪に対するイメージはあまりよくない。そこで、本校では「雪の活動」を教育課程に位置付け、今年度、低学年では生活科「スノーフェスティバル」の開催、中学年では総合的な学習の時間「冬の防風林探検」の学習、高学年では総合的な学習の時間「雪の学習プレゼンテーション」を通して、雪と親しむ機会を設ける。これらの活動を系統的に行っていくことで雪を親しみ楽しむ子どもを育てたいと考える。

2 取組内容

(1) 1年生 生活科「スノランド」 2年生 生活科「スノフェス」

～低学年に位置付く雪の生活科～

1年生では生活科「冬を楽しもう」、2年生では「冬をもっと楽しもう」に「雪の学習」を位置付けた。低学年では毎年恒例となり本校の「北っ子ガーデン」で雪像を作る活動を行った。今年度は1年生が「スノランド」と称して、雪山でのそりリレーや雪像作りを行い、近隣の幼稚園児を招待した。2年生は「スノフェス」と称して、近隣の保育園児を招待して、冬の楽しい遊びを教える活動の計画を立てた。今回、「雪の学習実践校」の予算で購入した、「雪玉作成機」や「雪像用色水」を使った。



(2) 3年生総合「Let's 防風林 冬タイム」

～年間を通して見つめる防風林活動～

3年生総合的な学習の時間「Let's 防風林タイム」として、冬期間の活動に「雪の学習」を位置付けた。昨年度から森林管理署、道森林室と協定を結び、「とんきた夢の森」として、一部管理を行った。冬期はスノーシューを履いて、防風林を散策する活動を行い、見たことと、感じたことを防風林辞典に掲載した（HP アップ予定）。また昨年度は冬期に巣箱を設置し、春の渡り鳥を待った。また、今年度は「紙ねっこん」を雪解けを待ち、設置した。



(3) 5年生総合的な学習の時間「Let's 雪タイム」

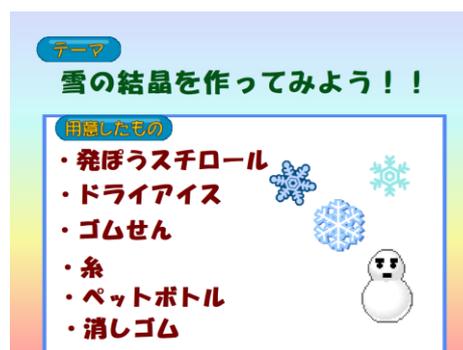
① 雪をテーマに課題を設定

5年生総合的な学習の時間「Let's 雪タイム」として雪について課題をもち、協働的に調査し発表する活動に「雪の学習」を位置付けた。活動は3学期を中心に行い、今年度は各学級5～6チーム（5～6人構成）、全19チームがプレゼンテーションを行った。5年生がプレゼンテーション作成に取り組み、「雪の結晶観察」や「雪野菜の糖度測定」などを主体的・協働的に行った。



② 学んだことのプレゼンテーション

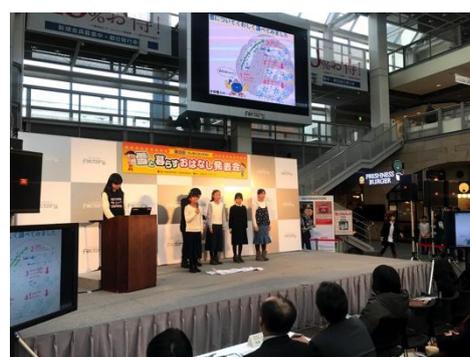
チームの発表会は、学年末懇談会に日程を合わせて保護者に向けて発表した。その後、互いに評価をして、上位チームが札幌市雪対策室主催の「雪と暮らすおはなし発表会」に参加した。この活動はすでに9年目を迎え、子どもにも、保護者にも定着した取組となっている。昨年度は札幌ファクトリーにおける「雪と暮らすおはなし発表会」に7チームが出場し、見事金賞をいただいた。



3 成果と課題

(1) 成果

雪の学習を系統立てて生活科や総合的な学習の時間に位置付けて7年目となる。教育課程に位置付けたことで雪に対する視点が低学年では「雪とどう仲良くなるか」、中学年では「雪と自然」、高学年では「雪と地域社会」といったように、雪の見方も、「造形的側面」「環境的側面」「社会的側面」といった多角的・多面的な見方・考え方を育てられている。積み重ねることで雪の学習の教材化が定着し、質の高い雪の学びになっている。



(2) 課題

雪の学習の実践は、天候、インフルエンザ、渉外関係の理由に左右されることが多く、計画が難しい部分もある。そのため、教師が多面的・多角的な指導計画を準備する必要がある。今年度は、年度当初に各学年で「カリキュラム・マネジメント」を計画することで雪の「周辺カリキュラム」を「見える化」し計画的に横断的に位置付けることや、準備の時間を考えたタイムマネジメントを行うことができたと考える。また、「雪の専門家」として地域の方の人材発見を進める。